恵みと真理のニュース

2011 年 8 月　恵みと真理教会
大韓民国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　“家庭の和睦を叶えてくださって感謝します。”

中学校2年生の時、お父さんが亡くなり私は心を頼るところもなく過ごしていました。高校2年生の時、教会に通っている友達に 「 私を教会に連れて行って欲しい」と頼んで、友達と一緒に教会に行くことになりました。教会に通いながら、小さな信仰でしたが神様に祈りました。“一生、十分の一献金の生活をします。早く就職が決って十分の一献金を捧げられるようにお願いします”。神様の恵みで卒業直後、銀行に入社することが決まりました。私が祈った通りに十分の一献金の生活を始めました。優秀社員として認められながら、活発に働きました。しかし、健康に問題が起りました。幼い時、心臓肥大症で手術を受けました。それが無理して働いたためその後遺症が現れて少しの話しだけでも息苦しくて辛いでした。その状況の中で職場で出会った男性と結婚することになりました。具合いが悪かったため働き辛かったので神様に祈って助けを求めました。それで銀行のリストラがあったとき、良い条件で仕事を辞めることが出来ました。

結婚後、夫の無駄遣いや彷徨で生活はとても大変でした。私は神様に「家庭の無駄遣いを防いでください」と切に祈りました。私は今まで夫の収入から十分の一献金を捧げるのは正しくないと思ったから十分の一献金を出していませんでしたが、自ら心立つ夫の収入から十分の一献金を捧げるように決めました。驚いたことに、その次の月から夫の無駄遣い癖が治り始めました。主人も自ら浪費癖を止めることが出来なくていたし、私もなにか良い方法が見つからずいました。大変な無駄遣い問題が不思議に十分の一献金を捧げることによって解決されたのです。このように神様に捧げることによって素晴らしい経験をすることができました。

夫との葛藤がふかくなって姑の了解を得て、夫は地方の仕事で暮し、私と子たちはソウルへ引っ越しして暮らすようになりました。2009年3月に通う教会を捜している中に恵みと真理の教会を出会うようになりました。最初は見慣れてなかったが、回りの聖徒たちと牧師先生や伝導師様の暖かい配慮で良く慣れるようになりました。熱心を出して礼拝に参席し祈りました。そのうち健康がとても良くなって息苦しくなる症状も、めまいもほぼ好転しました。体が丈夫になったので生活の貧しさを解決するため「職場を与えてください」と祈りました。神様の恵みで一週に2回、3回出勤しながら教会も気楽に通える職場を見つけてくださいました。

2011年には区域長役目を引き受けて働くようになりました。しかし、伝導をしながら区域礼拝を導きながらもいつも心に引っ掛かることがありました。主人と離れ暮らしている私自身が萎縮されて、大らかになれませんでした。それで主人と一緒に暮したいという希望が生じました。伝導目標10名と家庭の平安が回復するため祈り始めました。その同時の主人はたまに家に帰っていました。2010年半ばからは帰ってくる回数が増えました。次男は友達が交通事故で亡くなる姿を見た後、一人で家にいることも、一人でエレベータを乗ることもできませんでした。こんな息子のために主人はしょっちゅう家に帰ってくるようになりました。その中で2010年6月に主人は私に連れされ教会に行き神様を信じるようになりました。その後から毎週家に来て礼拝を捧げるようになりました。2011年3月付け主人はソウルへある勤め先に発令されまして自然に一緒になりました。私は感謝の気持でもっと頑張って福音を伝え、神様の恵みで伝導賞も受けるようになりました。

恐怖症で苦しんでいる息子のために切に祈っている中、ある月曜祈り会の時当会長牧師先生が癒しを宣言しました。“子ともが分からない恐怖症で苦しんでいる方は神様の御名によって癒されよ”。私は息子のための癒しの宣言だと信じて“アーメン”で答えました。また、他の週の祷り会には“借金はすべて清算されよ”。と当会長牧師先生が宣言しました。今回も私は“アーメン”で答えて神様が必ず助けてくださると期待しました。さすがに何日後、息子の状態が好転されて、借金もすぐ返すことができました。

家庭の祭事の日が近づいて来ました。神様に祈りながら姑の家に行きました。相嫁が祭事に必要な食べ物を全部用意して来ました。私は祭事の料理を作らなくて良かったんです。やっと祭事を行う日の朝になりました。珍しく姑は“あなたは祭事を捧げなくても良いのよ”と言いました。そのいつの神様の答えよりも嬉しくて感謝しました。また、10年ぐらい昇進しなかった主人の昇進が決まりました。姑も私たちの教会に通うことになるました。ハレルヤ!

神様は不足な私を先に呼んで救って下さいまして、主人との関係をいちばん美しい方法で解決して家庭の福音化も叶えてくださいました。また、息子の治療を通して大きな愛を経験するようにしてくださいました。『主イエスを信じなさい。そうすれば，あなたもあなたの家族も救われます。』この御言葉を実現してくださった神様に感謝します。これからも区域と教会のため一生懸命奉仕も祈りもしながら生きて行きます。アーメン

[信仰コラム]　”なぜ、祈るのですか?。”

“あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、、、心を盡くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。”（エレミヤ29:12、13）

“ あなたはなぜ、祈るのですか?。”という質問は“あなたはなぜ、呼吸するのですか？。”という質問と違いないぐらいとても当然な事実を聞いていると考えられます。聖徒たちに祈ることは普通のことですが、しかし、いざこんな質問を受けたらそれに相応しい答えができない人がいると思います。私たちがこんな質問についてはっきりした知識をもってこれを実践に移すと、信仰生活の発展と共にたくさんの有益を経験することができます。この質問は、祈る理由と共に祈る目的を聞く質問であります。

第一は、神様と通じるために祈るのです。神様は創造物の中で人を特別な存在として形作りました。魂を与えてくださいました。自由意志を与えてくださいました。治める知恵と権能を与えてくださいました。また、想像力と言語の駆使力を与えてくださいました。このような特性を通して、人間は霊的であり、人格的な存在として神様と交わりながら、通じるようにしてくださいました。しかし、罪を犯したアダムの子孫たちは日が経つたびに神様との距離が遠くなってきました。珍しくも神様はイエスキリストをこの世に送ってくださいました。神様は自ら人生の中に立って人間と交わりました。今は、人が神様と疎通できるいちばん普遍的方法しかし、優れた道を与えてくださいました。それは聖書と祈りです。祈りは全ての人が神様と疎通できるようにするいちばん簡単な手段です。まことの繁栄と幸せは神様との疎通を通して得られるのです。

第二は、神様のみこころを分別するために祈るのです。神様の主権と神様の栄光と神様のみこころは誰も奪い取ったり倒すことはできません。神様のみこころの通りにすることが神様の主権の下に従順することであり、神様の栄光のために生きることになります。人間のいちばん大きな不幸は神様のみこころに対する無知とまた、神様のみこころに反することです。天地万物を見るとき、ある神がいることを認めてもどうやって仕えるのかについて神様のみこころに問わないで自分の志の通りに行動することは、被造物を創造主よりも敬って偶像崇拝することであります。神様に正しい者として受け入れられ、それが完全であるのかをわきまえ知るために神様の御言葉を探るべきです。それて、祈るのです。

第三は、神様の助けを受けるために祈るのです。神様は永遠自尊な方であり、全知全能なお方です。万物を神様が形作り、全ての被造物は神様によって存在します。自然系の全ての法則も神様から与えられたのです。人間は他にどんな被造物よりも優れた存在として造られましたが神様の見守りがなければ生きていけないのです。神様の助けなしでは人間がもっている罪と死亡という本質的な問題を解決することもできなく、真の慰めや希望をもつこともできません。神様は、助けを求めながら祈る者にその顔を向けて耳を傾き、助けの手を差し伸ばしてくださいます。皆さんは “ なぜ、祈るのですか?”という質問について『私は神様の被造物です。創造主、神様の助けが切実に必要です。神様は祈る者に助けの手を差し伸ばしてくださいます。これが私が祈る理由です。』と確信をもって答えるようにお願いします。

みなさんはこのような理由と目的で頑張って祈りながら祈る喜びと幸せを十分味わう聖徒になりますように願い求めます。

（チョヨンモク牧師先生の信仰コラム
“青い草、清い川”　本の中から）

結末への予測と予知

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：ヘブル書6章11節～18節

人間は誰でもすべての事や状況の結末について正確に予測し予知したいと願がっています。将来のことを予想することは予測、知ることを予知と言います。もし、良い結末の予測や予知が出来れば心に余裕を持って行うことができます。その反面、予測が出来なく結末が分からなければびくびく焦ます。
世の中には予想も出来なかった事件や不可抗力の事態が発生するから将来のことを確信できないのが人生です。将来のことを正確に予測して結末を正確に言えるならどんなに良いかと誰でも思ってみるはずです。
しかし、驚くべきことは神様は人々のこういう願いへの答えをくださいました。誰でもこういう事実をきちんと悟って分かれば望みと確信を持って活気強い生活が出来ます。
神様が我々の一生の過程を細かく分からせなかったのですが、結末はどうなるかは確実に教えてくださいます。我々はその事例を聖書から見られます。神様は警告と約束の御言葉を通じて人間にとって予測できる生涯を与えてくださいました。これに関して三つの面で説明出来ます。

第一、神様は人間が自分の行為がどういう結果をもたらすのかを予測かつ予知するように警告の御言葉をくださいました。

神様はアダムを連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し守るようにさせました。また、人に命じて**「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」**と言われました。（創世記 2：16－17）
エバがサタンに誘わされ善悪の知識の木から実を取って食べました。また、アダムにも渡したからアダムも食べました。アダムとエバは神様から刑罰を受けました。彼らはその実を食べるとどうなるのかを十分に予測できました。その知識は神様かくださったにもかかわらず、彼らは予測可能な状態であったのに貪欲のため犯罪を犯してしまいました。

第二、神様は人間が神様の裁きと救いを予測して予知できるように警告と約束の御言葉をくださいました。

ノアの洪水事件がこれをよく語ってくれます。地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っていました。ノアの時代に至って人間の罪悪は最悪の状態になっていました。
その中でもノアは正しい人としていつも神様と共に歩みました。ある日、神様はノアに洪水の裁きを警告し救いに対する約束の御言葉を下しました。
神はノアに言われた。**『すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい』**（創世記 6:13-14）
神様は人々が予測できない洪水で裁かれたのではありません。前もってノアを通して人々に警告してくださいました。ノアは神様から与えられた警告と約束のみ言葉を人々に熱心を尽して述べ伝えました。（ペトロ二書２：５）
しかし、ノアとその七人の家族は神様の御言葉を信じて従順しました。その外の人々は神様が与えられた警告と約束の言葉を信じなかったのです。ですから、人々は洪水の裁きを予測できなかったのです。まさかそういうことが起きるかと思いました。いや、この警告をぜんぜん無視していました。
ペトロ二書３：２０には神様は人々が神様の警告を受け取って従順するように願って長い間を忍耐して待っておられたと記録されています。
神様は箱舟が完成されるまで１２０年の猶予期間を下さいました。箱舟が仕上げられるとノアに箱舟へ入るように命じられました。たぶん、ノア家族が箱舟に入ったという噂を聞いてそれを見事するため大勢の人々が集まってきたはずです。その姿を見て考えを持ち直すことが出来るはずでしょう。神様は箱舟の門を七日間開いて置きました。ですが、人々は依然として頑固で気が強く箱舟には入ろうとしませんでした。
七日が経ち、神様が箱舟の門を閉まりました。
この日、大いなる深淵の源がことごとく裂け、天の窓が開かれて土砂降りのような雨が降りました。
人々はこんなことがあるとは想像も出来なかったでしょう。到底予測できなかった洪水であると言ったでしょう。
では、彼らは本当に予測できなかったでしょうか。そうではありません。彼らは神様の警告や約束に対してノアを通して耳が痛くなるほど聞きました。
彼らが予測できなかったのは彼らの不信のためでした。ノアと家族は十分に予測かつ予知が出来ました。彼らは神様の警告を信じたからです。神様の約束を信じたからです。
明日が予測できる情報をいくら人々に提供するといっても絶対に信じない人にはしょうがないことです。
聖書には歴史の終末に対する予言が多く記録されています。世の終りの徴候も詳しく記録されています。
政治、経済、軍事の面にかかわらず、通信、交通、知識また地震、津波、飢饉などの自然災害に至るまで世の終りに関する状態を予言して記録しました。
特にダニエル書とヨハネの黙示録で集中的に扱っています。終末の徴候に関してイエス様が確実に教える言葉が福音書に記録されてあります。その外、使徒たちを通して予言された言葉が聖書に記録されています。
聖書に記録された警告と約束を信じる皆さんはイエス様の再臨と最後の裁きに対して十分予測かつ予知できます。皆さんはその日に備えて知恵あるものらしく歳月を惜しみながら生きるように願い求めます。

第三、神様は聖徒が明るい見込みと良い結末を予測し、予知して生きるように多様な約束と命令を授けてくださいました。

私たちが生きて行く世の中は天国ではありません。聖徒の生涯にも様々な困難がやってきます。しかし聖徒はこんなことは余裕を持って十分に克服することができます。
その理由は神様が授けてくださった命令と約束があるからです。その命令を信じ、従順すれば神様は必ずその約束どおりに叶えてくださいます。
イエス・キリストを信じる人々は聖書に記録された約束によって明るい見込みで生きて行くことができます。幸な結末を予測と予知して生きます。
まず、聖徒は永遠の命と天国に対する約束を受けました。**『私たちの肉身は天幕のようなものです。いつか崩れる時がきっと来ます。しかし、私たちは死亡の日にどんなことが起きるかを十分予測かつ予知できます。』**（コリント二書５：1）
現在肉身の目では見えなくても私たちが十分予測と予知して楽しめる理由は聖書に記してあるみ言葉で神様が約束してくださったからです。
また、イエス様が再臨するとき、私たちの死んだ体が蘇られ、聖徒は皆、変化された新しい体を持てると約束してくださいました。変化された体は私たちの体とは極めて違う次元の体です。
聖書には変化された体、蘇られた体を示し強い体、朽ちない体、死なない体、輝かしい者、天に属する者、霊の体と表現しています。ですから、聖徒は自分の体が将来どうなるかを予測かつ予知できるから年を取って衰えっていくのを嘆く必要はありません。
また、聖徒は主から誉れと報いを受けられるのを予測と予知して、その期待を持って主の働きに熱心を尽します。
コリント一書１５：５８には
『わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦労が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです』言われました。
黙示録２２：１２には**『見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを携えて来て、それぞれの行いに応じて報いる。』**言われました。
また、聖徒は神様から必要なすべてを与えてくださる助けを予測、予知して次のみ言葉を実践します。
『何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。』（マタイ６：３３）
『つまり、こういうことです。惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に満ちあふれるように、あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることがおできになります。』（コリント二書９：６－８）
また、聖徒は神の性格に叶っている行動を行う人の見方になって勝利を得られる予測と予知が出来ますので主の中で善と正し行動、真の生活ができます。
人間はどこから来てなぜ生きているのか、またどこへ向かっていてどう生きて行くのが良いか何も分からない暗中模索しながら暮しています。
クリスチャンはそうではありません。神様の約束を信じ、命じに従って生きるからです。それでいつもよい結末への予測する生活ができます。こういう予測が正しかったのを神様が必ず証明してくださいます。皆さんも全ての事に対して証しできる聖徒として生きますように願い求めます。